

3. 2020年度事業計画詳細

(1) 大工道具及び建築関連資料の収集及び保管

- ① 大工道具など実物資料の収集
 - a) 実物資料の収集
日本国内および海外の実物資料を収集し、展示事業ならびに研究活動に活用する。
- ② 視聴覚資料の収集と保管
 - a) 「木組みの家—大工・阿保昭則の仕事 長編版」
開館 35 周年記念展での上映用に製作した「木組みの家」(約 30 分)について、多くの撮影を行ったため、記録用に長編版(約 60 分)を編集する。
 - b) 「大工熊さんの物語アニメーション」
企画展「江戸の大工さん」での展示説明用に新規製作する。1993 年に製作した小咄(音声資料)にアニメーション映像を追加する。アニメーション製作については、産学連携として、神戸芸術工科大学に製作を研究委託する。
 - c) ビデオライブラリーの英語字幕化
ビデオライブラリーの映像資料の内、必要度と優先度の高いものを選別し、英語ナレーション版、または字幕版を製作する。2018 年度より開始した計画の継続実施分。
- ③ 分類整理・保管
 - a) 収蔵庫の整備
収蔵庫維持管理に伴う各種業務を実施する。害虫燻蒸、温湿度管理、資料の油拭き等の定常管理の他に、本年度は温湿度管理機器および除湿器の更新、資料増加にともなう保管用の棚・箱等の購入を行う。
 - b) 資料データベースの整備
資料の保全ならびに管理作業の効率化を目的に、大工道具・図書・文献・映像・論文等の資料のデジタル化・データベース化を継続的に推進している。本年度は通常通り、新規収集資料の登録、写真撮影、画像補正・挿入等の作業を実施する。

(2) 大工道具及び建築関連資料等の展示及び公開

- ① 常設展示
 - a) 常設展示の保守管理
常設展示における器具破損対応等の保守管理、道具の油拭きならびに借用品の賃借契約更新を行う。
 - b) 関連印刷物の発行
来館者用のリーフレット、企画展、ワークショップ等のイベントチラシ、企画展図録の印刷発行と増版を含む適正在庫量を確保する。
- ② 企画展の準備と実施
 - a) 開館 35 周年記念巡回展「木組 分解してみました」
開館 35 周年の特別企画として、様々な「木組」の魅力を紹介する大型企画展を開催する(2019 年からの継続事業)。本年度は下記の 5 会場にて開催する。各会場では展覧会に加えて、講演会やワークショップなど関連イベントを実施する。

・名古屋会場
会場：トヨタ産業技術記念館
会期：1月11日～4月5日

・東京会場
会場：国立科学博物館
会期：5月下旬～7月中旬

・広島会場
会場：CLiP Hiroshima
会期：7月下旬～9月上旬

・札幌会場
会場：JRタワープラニスホール
会期：9月中旬～10月下旬

- b) 企画展「江戸の大工さん 暮らしと仕事 (仮)」
神戸市立博物館特別展「建築と社会の年代記—竹中工務店 400年の歩み—」連動企画として同時期に開催する。江戸時代から明治時代にかけての大工の暮らしと仕事を紹介することも目的に、アニメーションやイラストを用いて、地味な内容を明るく楽しく紹介する。
会場：当館多目的ホール
会期：1月11日(土)～3月1日(日)
- c) 企画展「アイノとアルヴァ その建築とデザイン 木材曲げ加工の技術革新」
竹中育英会主催、アルヴァ・アールト・ミュージアム、ギャラリーエークワッドの共同企画で開催する展覧会の一部を当館との共同企画で開催する。
会場：当館多目的ホール
会期：3月28日(土)～6月7日(日) (予定)
- d) 企画展「神戸芸術工科大学作品展」
地域連携企画として神戸芸術工科大学の学生作品展を開催する。
会場：当館多目的ホール
会期：9月
- e) 企画展「鋸の名工 宮野鉄之助 (仮)」
鋸鍛冶の二代目宮野鉄之助の作品を中心に、鋸の名品や鉄之助の使った鍛冶道具を展示する。
会場：当館多目的ホール
会期：10月17日(土)～12月13日(日)
- f) 企画展「ワイズベッカー」東京展
建築から日用品に至るまで、シンプルな作風で、ものの魅力を鋭く捉えているフィリップ・ワイズベッカー氏。今回は欧米のアーティストの目線で、当館所蔵の大工道具を描いてもらい、実際の大工道具とイラストを同時に展示することで、大工道具の魅力を紹介する。
会場：ギャラリーエークワッド
会期：10月12日(月)～12月18日(金) (予定)
- g) 企画展「一脚展 2020」
兵庫県で活動する家具作家が過去一年以内に製作した新作の椅子を一脚ずつ展示する企画展を開催する。

会場：当館多目的ホール

会期：7月

- h) 企画展共通備品の整備
企画展開催に必要な備品（映像機器、サインスタンド等）を購入する。

③ 企画展の中期的準備

a) 企画展「唐招提寺（仮）」

唐招提寺に関する企画展を2021年に開催すべく準備・調整を進める。

b) 海外特別展（ヨーロッパ）

2022年第一四半期にポーランド共和国クラクフ市マンガミュージアムで展覧会を開催すべく準備・調整を進める。

（3）大工道具及び建築関連資料等に関する調査研究及び研究誌の発行

① 海外の建築技術と道具

a) 東アジア（中国、韓国）

日本と深い関わりをもつ中国・韓国の木造建築と道具に関する調査研究を実施している。本年度は韓国の現役大工および鍛冶に関する基礎調査を現地にて行う。

b) ヨーロッパ

ヨーロッパの大工道具と建築技術に関する継続的研究を引き続き行う。本年度は特にフランスの規矩術に関する調査を行う。

② 日本の建築技術と道具

a) 大工技術書

館蔵大工技術書の「黒田宗信伝来文書」についての読解研究を継続する。

b) 建築部材の加工技術（部材刃痕）

近世までの部材加工技術の実態を明らかにすべく、建築部材の刃痕調査を継続する。日本の現存最古の民家である神戸市の箱木家、ならびに姫路市の古井家の刃痕調査の成果を報告する。

c) 職人への聞き取り調査

名工と讃えられる大工ならびに鍛冶を対象に、既往研究調査ならびに本人・関係者への聞き取り調査を、中期的課題として継続的に実施する。

d) 近世民家の住まい方

近世の民家における住まい方の歴史あるいは構法・加工技術の歴史について調査研究を進める。今年度は資料調査など各種準備を行う。

③ 博物館学：教育普及活動

博物館における学校との連携事業を対象に実践的研究を進める。本年度は担当学芸員産休のため休止。

④ 出版活動（研究成果の公開）

a) 研究紀要 No. 31 の発行および No. 32 の準備

調査研究成果の公開を目的として、研究紀要 No. 31 を3月下旬に発行し、当館関係者、大学、専門研究者等に配布する（800部作成予定）。年後半には No. 32 発行に向けて企画ならびに原稿執筆を進める。

- ⑤ 調査研究一般
 - a) 「技と心」研究会開催（旧村松記念研究会）
館外学識者ならびに館職員を対象に、木造建築ならびに道具に関する専門家を招聘して、研究会を開催する（7月頃を予定）。その他必要に応じて適宜、個別の研究会を開催する。
 - b) 情報収集活動ならびに研究者ネットワークの形成
道具と建築に関する情報収集を行う。現地調査、学会参加、博物館視察、出版物収集などを随時実施。また重点推進テーマに関する館外学識者との勉強会を適宜開催し、研究ネットワークの構築と館職員の知識向上を図る。

（４）教育、学術及び文化に関する普及及び支援活動

- ① 諸施設への協力
 - a) 諸施設への協力
博物館・研究機関・職人団体等への情報提供および資料貸出、博物館実習生の受け入れ、館外での受託講演、研究協力などを行う。
 - b) 神戸市立博物館特別展「建築と社会の年代記」への協力
建築文化の保存と継承を目的に、当該展覧会開催に協力するため負担金を支出する。また同展覧会終了後に当館に寄贈予定の正福寺本堂組物模型の保管活用について検討する。
- ② 講演会とセミナーの開催
 - a) 「技と心」講演会
館外の学識者や著名人物を講師として迎え、一般向けに大工道具や建築技術に関する講演会を実施する（11月開催）。本年度は「宮野鉄之助」展と連動した講師を招聘する。
 - b) 「技と心」セミナー
館職員および館外学識者を講師に、大工道具や建築技術に関するセミナーを隔月で開催する。
 - c) サマーイベント、ウィンターイベント
夏季限定の特別イベントを今年も開催する。冬季も同様に、季節にあわせて特別イベントを開催する。
- ③ 教育普及プログラムの実施
 - a) 館内プログラム
来館者に道具の使用を通して理解を深めてもらうため、「ちょこっと木工」（ワークショップ、水曜、土日祝日）、大工による鉋削り体験（月1回）、大工道具にチャレンジ（月1回）、春休み・夏休み子ども体験教室、木工作家によるワークショップなどを定期的実施する。
 - b) 木工室の管理・運営
安全かつ円滑なイベント実施のために、木工室を管理する。また、イベント実施に必要な大工道具および工作機械を拡充する。
 - c) アウトリーチ活動
小学校をはじめとする教育機関での出張授業や教員研修、他機関での体験教室などのアウトリーチ活動を実施する。
- ④ ボランティア活動の管理・運営

大工道具に関心ある希望者をボランティアスタッフとして受け入れ、(1)館蔵品の手入れや整理等の補助、(2)常設展示の展示解説、(3)館内プログラムの運営およびその補助、(4)アウトリーチ活動での補助等に携わってもらっている。これら活動の管理運営ならびに、スキルアップのための研修会・見学会等を随時実施する。

(5) 竹中大工道具館の管理・運営（管理業務）

① 管理・運営一般

a) 財務会計処理業務一般

本館活動のための資金運用を含めた財務会計処理業務を適正且つ着実に実施する。

b) 入館受付、団体受付、展示説明他

団体の見学依頼の予約受付、展示説明対応者の設定を着実にこなすと共に、個人の来館者、外国人来館者に対しても解説ボランティアや音声ガイド活用等により満足される対応を行う。人気の「ちょこっと木工」については受付業務をスムーズに行うために参加申込シートやメニュー表の改善を進める。

② 広報活動

a) 広報一般

各種広報媒体へ企画展やイベント活動等を含めた情報提供を積極的に展開し、広報後の礼状送付などアフターケアを含め継続して報道してもらえるよう努める。また必要に応じ新聞折り込み、駅貼り広告、施設や店舗への有料配架委託を実施する。

b) 広報印刷物の発行と送付

当館の最新情報およびイベント案内を掲載した広報誌「竹中大工道具館 NEWS」（年2回発行、作成部数6月：8,000部、12月：8,000部）と「イベントチラシ」（年2回発行、作成部数6月：12,000部、12月：12,000部）を発行し、また、サマーイベントやウィンターイベントの各チラシ（6月：30,000部、12月：15,000部）も発行する。関連施設、来館者などに配布ならびに発送する。

c) ウェブサイト・メールマガジンの維持・管理

広報活動の一環として、一般向けにITを利用した、ウェブサイトの定期的更新および企画用特設サイトの構築、メールマガジンの定期発行（隔月年4回、広報誌NEWSベースに再編集）を実施する。また外国人対応のため、英語ウェブサイトを充実させる。

③ ミュージアムショップの運営

来場者サービスの一環として「木」「道具」をコンセプトにミュージアムショップを運営している。購入者の嗜好を検討しながら、当館のイメージ向上につながる新商品の開発を生産者と連携しながら進めていく。

④ 茶室の維持・管理

敷地内の茶室を適切に維持管理し、春・秋にそれぞれ2日間の日程で応募による呈茶体験並びに特別公開を実施する。

⑤ 休憩室の維持・管理

休憩室を適切に維持管理し、小学生の校外学習での昼食場所、乳幼児を連れた家族の休憩場所、おとなが庭園を見ながらほっとひと息つける心地よい休憩場所を提供する。

⑥ 館の情報インフラの強化・管理

運営に必要な作業環境および情報インフラの更なる充実とセキュリティ強化を図ると

ともに、特に情報発信の手段としてメインとなるホームページの充実を図りユーザーの利便性を向上する。

⑦ 理事会・評議員会、役員見学会の開催

2～3月に決算の定時理事会及び定時評議員会、11月に次年度の事業計画・予算の定時理事会及び役員見学会(役員全員)を開催する。また、必要に応じて臨時理事会、臨時評議員会を開催する。

⑧ 財団法人事業報告会への参画

(公財)竹中育英会、(公財)ギャラリーエークウッドと共に出席し、本館の事業の進捗などについて報告、及び運営上の情報交換さらには企画展の共同開催についても情報交換を行う。

⑨ 運営管理の改善と効率化

館の運営に係る管理費(固定経費)をより精度よく把握するとともに、事業費(変動費)の予実管理の充実を図ると共に効率よい運営を推進する。